

ガイドブック

自閉症のある子どもへの支援



千葉県総合教育センター

ま え が き

学校教育法の一部改正が行われ、従来の特殊教育から特別支援教育への転換が図られ、一年が過ぎようとしています。自閉症のある児童生徒においても、自閉症の障害特性に応じた指導方法・内容の整理や教員集団の専門性の向上が求められているところです。

さて、中央教育審議会は学習指導要領の改訂に向け、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（答申）をとりまとめました（平成20年1月17日）。今回の答申は「自立活動」について、「5区分の下に22項目が示されているが、社会の変化やこどもの障害の重度・重複化、自閉症、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）等も含む多様な障害に応じた適切な指導を一層充実させるため、他者とのかかわり、他者の意図や感情の理解、自己理解と行動の調整、集団への参加、感覚や認知の特性への対応などに関する内容を内容の項目に盛り込む。」こと、『新たな区分として、「人間関係の形成」を設ける」こととしました。

現行の学習指導要領の自立活動に、対人関係やコミュニケーションなどの自閉症の障害特性に関する対応について、その指導内容が示されていますが、実際の指導にあたっては、教育課程や指導内容の整理が必要であり、今回の答申は、この課題解決への方向性を示すものと考えます。

さて、当センター特別支援教育部では平成17年度から3年間に亘り、知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒の指導について、その障害特性の応じた指導内容、学習グループ、教育課程の編成の在り方について検討を重ねて参りました。今年度はその研究の成果を、このガイドブック「自閉症のある子どもへの支援」としてまとめることができました。

このガイドブックにより、自閉症のある児童生徒の日常生活、学校での活動が少しでも充実し、また、学校での指導、家庭でのかかわりが円滑になることを期待いたします。お手もとに置き、御活用くださいますようお願い申し上げます。なお、ガイドブックについて、さらに内容の見直しを図り、充実させていく所存です。御一読の上、御批正賜りますようお願いいたします。

最後に、御多忙の中懇切丁寧に御指導くださいました帝京大学教授大南英明先生はじめ、快く研究協力をお引き受け下さいました県立柏特別支援学校、県立富里特別支援学校の校長先生はじめ職員の方々、そして研究協力員の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

千葉県総合教育センター

所長 多田 芳樹

目 次

まえがき
目 次

I 自閉症の障害特性の理解

3

II 支援の基本（環境調整）

ー 生活しやすい学びやすい学校生活を送るために ー

- 1 安心できる環境作り（人的環境） 4, 5
- 2 理解できる環境作り（物的環境）
 - （1）学習環境の工夫 7
 - （2）活動の進め方の工夫 8, 9

III 自閉症の特性に応じた指導内容及び指導方法

- 1 指導内容 11
- 2 指導方法
 - （1）社会性を育てるために 12, 13
 - （2）わかりあえるコミュニケーションのために 14, 15
 - （3）見通しを持つために 16, 17
 - （4）認知の力を高めるために 18, 19
 - （5）余暇を上手に使うには 20

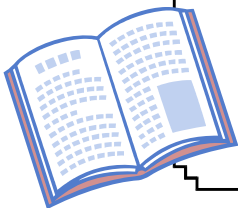
IV 学校生活を通じて支援していくために

- 1 自閉症の特性に応じた教育課程 21
- 2 教育課程の実際（日課表と構造表） 22, 23
- 3 個別指導計画の効果的な作成 24, 25
 - 子どもたちが一人で活動をやりきるための観点 26
- コラム 「将来の生活につなげるために」 27

コラム

自閉症のある子どもの成長に伴う変化とそれへの対応 6
帝京大学 教授 大南 英明

子どもの行動問題の理解と対応～ほめて育てる解決～ 10
千葉県発達障害者支援センター
副センター長 田熊 立



I 自閉症の障害特性の理解

自閉症のある子どもたちの特性

社会性・対人関係の困難さ

常識・社会のルールに従うことや仲間関係を作ること、相手の気持ちを理解したり共感したりすることが苦手です。

具体的な様子としては

- ・一人であることを好んでいるように見える。ひとり遊びが多い。
- ・視線を合わせない ・模倣が苦手 等です。



コミュニケーションの困難さ

言葉が出なかったり、言葉があっても会話にならなかったり、自分の気持ちを上手に表現することができなかったりします。また、相手の言ったことを理解することも苦手です。

常同行動や固執傾向(想像力の困難さ)

特定のものの手順や配置・ルールにかたくなにこだわったり、感覚刺激に没頭したり、特定のものに偏った強い興味を持ったりすることがあります。

⇒ これは、物事の因果関係を理解することや、見通しを持つことに困難さがあるためです。そのため、**変化や新しい活動に強い不安を感じます**。変化がある場合や新しい活動に取り組むときには、**あらかじめ予告をし、具体的に活動内容を伝えたり、スモールステップ**で行ったりすることが有効な手だてとなります。

感覚の過敏さ鈍感さ

味覚や聴覚、触覚などに対して極端な反応をすることがあります。

- ・生理的な嫌悪感に慣れることは難しいので、「音であれば消音のためヘッドフォンをする」等周囲の刺激を自分から調整することが必要です。

優れた記憶力

長期記憶が優れており、1度覚えたことは、忘れにくいと言われています。

パターンは得意

繰り返し行われることやパターン化されたことに対しては、まじめに根気よく取り組みます。

視覚的情報処理が得意

耳からの情報処理は苦手なことがあります。

- ・写真や絵、文字などその子どもに応じた視覚の手がかりを使うと効果的です。

シングルフォーカス

複数のことを同時に処理することが苦手です。

- ・一つ一つ順番に簡潔に指示を出す
- ・提示したものに注目できるように、気が散る物を見えないようにする工夫が必要です。



このような共通した特徴がありながらも、一人一人の症状や行動特徴等の現れ方は異なります。自閉症の障害特性を理解した上で、一人一人の状態に応じた配慮や支援を考えていくことが大切です。

Ⅱ 支援の基本

1 安心できる環境作りー子どもと信頼関係を築くためにー

共感的な関わり

学校生活で子どもの一番近くにいるのは担任です。まず、教師が子どもの思いを理解しようとする気持ちが大切です。障害から起こる困難だけでなく、その子どもの長所をたくさん見つけましょう。教師が子どもを理解し、子どものよいところに目を向けて生活を送ることで、子どもも「先生といると楽しいな」「この先生は信頼できる」という安心感を持ちます。あたたかい信頼関係を持つことから学校生活がスタートします。



こだわりがある →
係活動を毎日忘れずに
やってくれて嬉しいわ



上手に気持ちを伝えられない
→ ○君はゲームで負けて悔し
かったんだね

具体的に

言葉が頭の中で絵としてイメージできるように具体的に伝えましょう。

- × 「きちんと掃除をしてね」
- 「廊下の端まで1回拭いてね」

目に見えるものは理解しやすいですが、目に見えないものを理解することが苦手です。

短く

伝えたいポイントだけできるだけ短く話しましょう。

- × 「○○すると だから□□ね」
- 「□□してね」

同時に多くのことを処理することが苦手です。

肯定的に

穏やかな口調で、してもいいことを肯定的に話しましょう。

- × 「廊下は走りません」
- 「廊下は歩きましょう」

相手の言っていることの裏を読み取ることが苦手なので「してはいけません」といわれても「何をしたらいいのか」がわかりません。

視覚的に

子どもに分かる視覚的な情報も合わせて提示しましょう。

(実物)



(写真)



(文字)

水筒 等

聞いて理解する力より、見て理解する力の方が優れている子どももいます。

子どもを認める・褒める

できたこと、やり遂げたことを子どもに分かるように褒め、自己肯定感を育てましょう。



はさみでまっすぐに切れたね

子どもの動機付け

- ① 活動とお楽しみを組み合わせる
 - ② トークン(ポイント制)を活用する
 - ③ 褒める 等
- 子どもに合わせて動機付けを高めましょう。

活動の見通し

1日の予定・活動の予定・活動のルールや終わりを予告し、先の見通しが持てるようにしましょう。



〔1日の予定〕〔活動の予定〕〔量で終わりを提示〕

個々に応じた援助

- ① 援助の種類：身体的な援助→言葉かけ→指さし→物の提示→モデル提示
- ② 援助の量
- ③ 援助のタイミング に配慮しましょう。

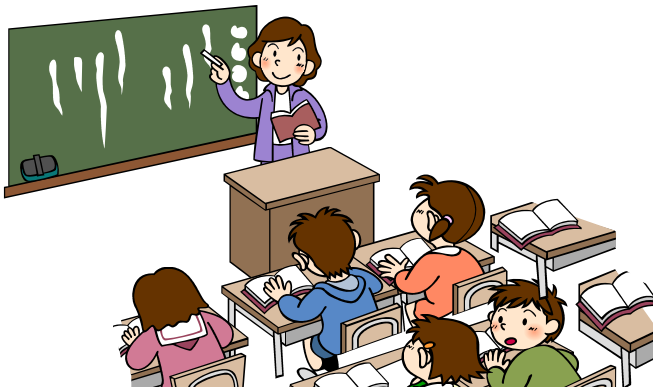
スモールステップで援助を減らしていき、自立できるようにしていくことが大切です。

子どものペースを大切に

- ① 子どものペースを待ったり、ペースに合わせることが大切です。
- ② どこで褒めるか、援助するかの見通しを持ってかわりましょう。

教師間の共通理解

- ① 子どもの活動と援助の仕方
- ② 教師間の役割分担について共通理解を図りましょう。



〔コラム〕 自閉症のある子どもの成長に伴う変化とそれへの対応

帝京大学 教授 大南 英明

自閉症の障害の特性である①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることは、成長、発達に伴い、個人差は大きいものの変化をしています。例えば、同じ会社で何年も続けて勤務できていたり、多動性が減少したり、こだわりが目立たなくなったり、日常的な会話に困らなくなったりします。

このような成長、発達、変化は、多くの事例から時宜を得た学習(タイムリーな学習)、支援によって加速されるものと考えられます。

1 年齢にふさわしい接し方、支援を心掛ける

話していること、していることが幼いからといって、幼児と同じように接することは、避けてほしいものです。例えば、高等部の生徒に対し、呼名するとき「ひでちゃん」と呼んで違和感をもちなかったり、本人も気にとめなかったりしています。しかし、大人になれば、一般的に、姓で呼ばれます。現場実習などに出たとき、本人が戸惑わないようにしておく必要があります。

また、子ども料金と大人料金の支払いに係わる場合があります。中学生になれば、大人料金を払う習慣を付け、中学生であるという自覚を持つようにすることが大切です。そして、レストランでは、好きなものを自分で選ぶようにしたり、靴下やハンカチなども自分で選んで買う習慣を付けて置くようにすることです。これらのことは、自己選択、自己決定の基礎となります。

2 できることを伸ばし、できないことにこだわらない

整理整頓がとても上手にできる、文字に関心があり、書くことが得意である、記憶力がよく、名前などをよく覚えていることなど、一人一人でできること、得意なことは異なっています。できること、得意なことを活用して、さらにレベルの高い活動につなげるように工夫することです。

一方、できないこと、不得手なことも目立つことがあります。特定のものにこだわり、広がりがないこと、ルールがなかなか分からずゲームなどに参加できないこと、マイペースで周囲のことに気を配らないこと、食べられる食品が極端に少ないことなどがあります。

これらのことの中には、集団生活を送っているうちに、慣れていくにつれて、少しずつ学習し、身についていくこともあります。しかし、段階をおって、きちんと「教える」「しつける」ことが必要なこともあります。

例えば、トイレの使い方、食べられる食品を増やすことで、自分のものと他人のものとを区別すること、欲しい物は、お金を払って買うことなどは、年齢の低い時から少しずつ、教える、しつける必要があります。食べられる食品が増えていくことにより、落ち着きがでてきたり、バランスのとれた体格になったり、こだわりが少なくなったりする例が、いくつも報告されています。

3 特に男子の自閉症の児童生徒への指導、支援を

男子の自閉症の児童生徒の中には、女性の髪に関心をもち、触ったり、匂いを嗅いだりすることがあります。また、胸を触ったり、正面から抱きついたりすることもあります。小さいうちは、可愛いなどと、あまり気にもとめないことにはなりますが、このことが、習慣化し、電車やバスの中や、人込みで、体が大きくなってからも続くことになると、事態は深刻になります。小さいときから、女性の髪を含め、体に触らないようにすることを分からせる必要があります。

4 生涯を通じて、ライフステージに応じた学習ができる、支援が受けられる場を確保する

学校時代には、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援が展開されますが、卒業後も、必要なときに必要な支援が受けられる場を確保する必要があります。生涯学習体系の中に自閉症の人たちのことも含んだものにするのです。東京墨田区で40年以上続いている「すみだ教室」などを参考として活動を継続していくことが望まれます。

2 理解できる環境作り ―自分で判断できるように―

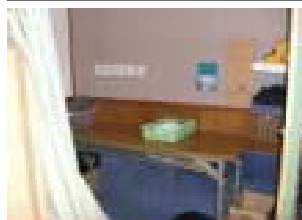
(1) 学習環境の工夫

聴覚や視覚等に感覚過敏があり、状況全体を捉えることが苦手な児童生徒には、刺激を整理をしたり、活動と場所を一致させたりして分かりやすい学習環境を提供することが大切です。

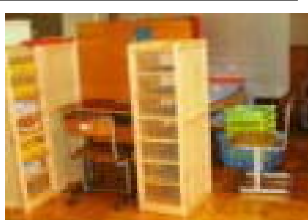
小学部教室の工夫例

ポイント1 活動と場所の一致

集団の学習，個別学習，着替え，休み時間を過ごす場所を別々に設定しました。



【着替えコーナー】



【個別学習コーナー】

ポイント2 刺激の整理

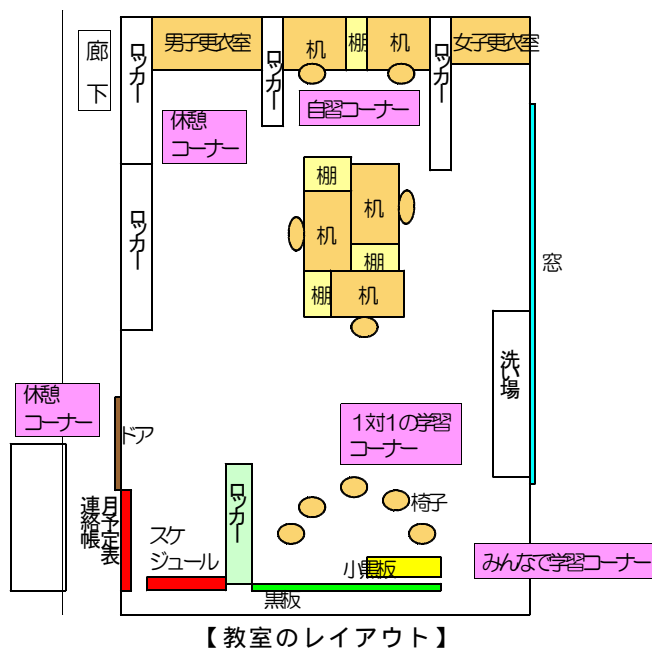
授業に関係のないものには目隠しをし，集中しやすくしました。



【教室の前面を整理】



【ロッカーを目隠し】



【教室のレイアウト】

ポイント3 視覚的明瞭化

注目してほしいところに注意が向くように小黒板やボードを利用しました。



【小黒板の利用】



【ボードの利用】

ポイント4 休憩コーナーの設置

教室の一部にカーペットを敷いたり向かいの特別教室の一角に一人で過ごせる場所を用意しました。



ポイント5 児童の動線

教室内の活動が進めやすいように動線を短くしました。

(2) 活動の進め方の工夫

手順や終わりを伝えよう

課題や作業の方法・手順も、一人一人が分かるように視覚的に示しておく、自分で判断して進められるようになります。また、目に見えない時間的の経過が分かりづらいため「物事の終わりを理解することが難しい」ということがあります。視覚的に工夫して「いつ終わるのか」を伝えて「物事には終わりがある」ことを教えていくことはとても大事なことです。

「どれだけするのか」「何をするのか」「いつ終わるのか(終わりの概念)」「終わったら次に何があるのか」を伝えましょう。

個別課題を自分で進めるためのシステムの例



【色マッチングが得意な子どものシステム】

机上的色カードを取って棚の色カードとマッチングし、その課題を取る。

机上で課題を行う。

棚に課題を戻す。

どれだけするのか？

机上の色カードの数だけ

何をするのか？

棚のカゴに入っている課題

いつ終わるのか？

課題が終わったら

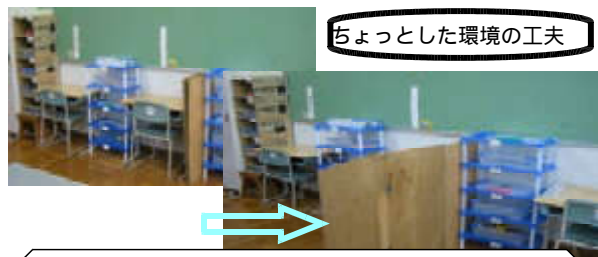
終わったら何があるのか？

次の活動(スケジュール確認)



【色マッチング以外の例】

理解できる物や好きなキャラクターを使ってシステムを作ると子どもが進んで行います。



ちょっとした環境の工夫

刺激が強い時には、間に衝立を立てます。椅子に座ると隣の子どもの姿は見えなくなります

個別課題の例

課題を自分一人でやり通せるために



分類の課題

【課題作製のポイント】

(例) 課題：ペットボトルに貼ってある絵と同じビーズをいれる。

何を行うのか目で見てわかるようになっていますか？

(例) ペットボトルにビーズの絵が貼ってある。

材料の整理ができていますか？

(例) ビーズが容器に必要な量入っている。

重要な指示が強調されていますか？

(例) ペットボトルに貼られている色のはっきりした絵。

一人でできるように支援を行おう

自閉症のある児童生徒は、言われたことを、自分の理解の仕方で行動してしまうため、周囲が期待しているとおりに行えず、勝手なやり方でやっていると誤解されることがあります。失敗体験にならないように、視覚的に分かりやすく伝えていくことが大切です。

手順書やシステムの例



【朝の支度の手順書】
上から写真をはがす。
その写真の活動を行う。
(荷物片付け→保健カードの片付け→雑巾がけ→個別の学習→お楽しみ活動)
写真が理解でき、5つ先まで見通しが持てる子ども用



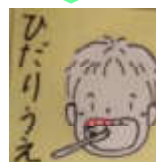
【型紙つき着替え手順書】
正面に貼られている手順書を見ながらズボンをたたむ。
(型紙の上にズボンを広げる→ズボンをたたむ→かごに入れ、ロッカーに片付ける)



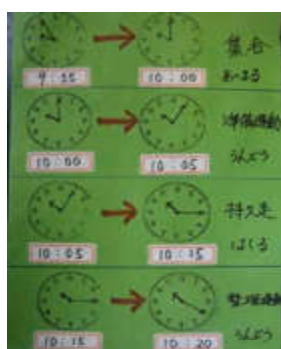
【雑巾がけのシステム】
雑巾を上から取る。
廊下を1往復したら雑巾をバケツに入れる。
を2回繰り返す。



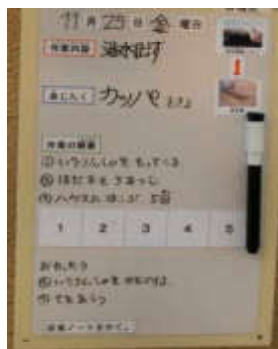
【歯磨きの手順書】
1枚ずつカードをめくる。
描かれている活動を行う。



【マラソン】
周回数がわかるシステム】



【体育の手順書】



【作業の手順書】



【調理の手順書】

【コラム】

子どもの行動問題の理解と対応～ほめて育てる解決～

千葉県発達障害者支援センター 田熊 立(たくま・りつ)

もし、あなたの友人があなたに嘘をついたとしたらどうしますか？親しい間柄だからこそはっきりと文句を言いますか？ショックを受けてしまい、どうしたら良いのかわからず結局何もしないでいますか？嘘という行為そのものだけに注目してしまうと、怒りやショックというような行為に対する感情だけで対応を選んでしまいます。しかし、あなたは友人に「なぜ嘘をついたのか」と問うでしょう。そして、自分と友人とのやりとりのどこに問題があったのか、嘘という行為を通して友人は何を伝えたかったのかを知ろうとするでしょう。では、あなたの友人が発達障害のある人だったら、あなたの「なぜ？」という問いにうまく答えることができるでしょうか。大したことではないのに、あなたに知られてしまったら、この世の終わりのような気がしてついつい嘘をついてしまった・・・という気持ちを、理解してもらえるように話すことができるでしょうか。こういった感情をことばとして表現することが苦手な人が、発達障害のある人なのです。

センターにこんな相談がありました。

小5の息子はアスペルガー症候群という診断を受けています。昔からあまり質問には答えてくれない子どもでした。最近は、「今日学校で誰と遊んだの？」と質問しても「えーっと」と言って、考えるふりをしているだけで、答える気がないようです。「質問にはきちんと答えなさい」と注意していますが、効果はありません。思春期になって親と関わりたくないのでしょうか。

学校で誰と遊んだのか答えてくれない子どもですから、「なぜ質問に答えようとししないのか」という母親の問いに答えてはくれません。こういった場合、理由を周囲の大人がさぐっていく必要がありますが、そのやり方はシンプルです。行動の前後【きっかけ】と【結果】をみれば良いのです。

この場合は次のようになっています。

【きっかけ：母親からの質問、WHの文型の質問、学校に関する質問】→【「えーっと」を繰り返す】→【結果：注意される、母親が質問するのを止める】

このやりとりの中で子どもは「えーっと、と言っていれば母親が質問するのを止める」、つまりなんとか苦手な場面から逃げる方法を学んだようです。答える気がないから、思春期だから、答えたくないから「えーっと」と言っているのではなく「お母さんその質問はもうやめて」と伝えているのです。

では、どうすれば良いのでしょうか。

【きっかけ】を、選択肢を出したり、Yes/Noで答えられるような質問、あるいは、学校に関係のない質問に切り替えて、子どもが必ず答えてやりとりを終えること、そして答えたら必ずほめて【結果】をかえることが大切です。母親の質問から逃げるのではなく、答えてほめてもらうという循環にかえることが大切なのです。



Ⅲ 自閉症の特性に応じた 指導内容及び指導方法

1 指導内容

自閉症のある児童生徒が将来自立して豊かに生活していくためには，学校の教育活動の中で「社会性，コミュニケーション，見通し，認知，余暇」という指導内容を，継続して意識的に指導していくことが必要です。従来の知的障害教育の良さを生かしながら，自閉症のある児童生徒に必要な内容や方法を学校の教育活動に取り入れることが大切です。

社会性	他者との関係を作ったり(対人関係)，社会的にふさわしい行動を取ったり(社会参加)することは，社会の中で生きていく基本的な社会的能力です。	〔指導方法例〕 社会性を育てるために P 12,13
コミュニケーション	お互いが理解できる手段を見つけ，身に付けることで，周囲とのやりとりが楽になり，安定した生活につながります。	〔指導方法例〕 わかりあえるコミュニケーションのために P 14,15
見通し	スケジュール等を確認しながら，見通しを持った生活ができるようになることは，安心できる生活，主体性を持って生活をするにつながります。	〔指導方法例〕 見通しを持つために P 16,17
認知	認知はすべての学習の基礎になる力です。 認知が向上することにより，周囲の環境を理解しやすくなります。	〔指導方法例〕 認知の力を高めるために P 18,19
余暇	一人で過ごせる趣味を持つこと，地域資源を利用すること等は，自由時間を適切に過ごすことにつながります。 卒業後の安定した社会生活のためにも小学校や特別支援学校小学部の頃から興味・関心を広げる余暇指導は必要です。	〔指導方法例〕 余暇を上手に使うには P 20

指導内容例は巻末に資料として載せてあります。

2 指導方法

(1) 社会性を育てるために

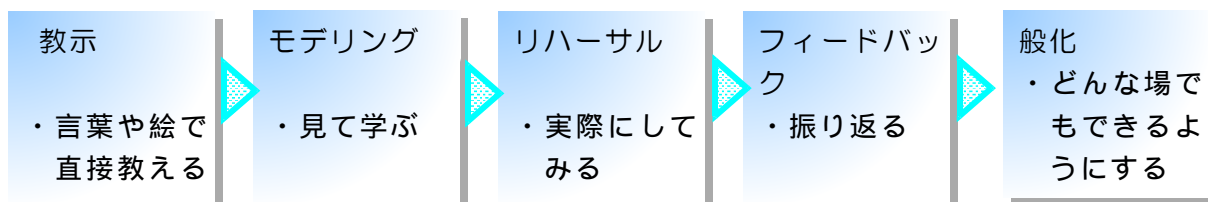
社会性を育てるポイント

自閉症のある児童生徒は社会性の困難さがあることを踏まえ、無理のない目標設定を行う。楽しい活動、その児童生徒にとって行ったことが有効だと思える活動場面を設定する。学校生活における初めての活動やトラブルが起きることが予想される活動については、あらかじめ適切な対応方法を指導する。時間、場所、人が違ってできるように、いろいろな場面で指導する。

人間関係を豊かにし、社会参加を促すための指導方法(例)

ソーシャルスキルトレーニング

- ・ 社会生活や対人関係を営んでいくために必要な技能を学ぶ方法



- 【ポイント】
- ・ 見通しが持てるようにする
あらかじめ活動の予定や取るべき行動などは具体的に教えておく
 - ・ 視覚化する
ルール、やり方、スケジュール等を絵や文章で視覚的に示す
 - ・ 手順化する
活動予定、問題の解き方を手順化する(スクリプト)

コミック会話

- ・ 児童生徒が困っていたり、上手に状況を説明できないときに人の絵と吹き出しを書いてそれをもとに話し合いながら指導していく方法



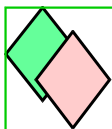
ソーシャルストーリー

- ・ 社会的行動に対して手順化、台本化して支援していく方法
- ・ 文章の理解ができる(絵が入ると理解できるも可)児童生徒に効果的

(例)

「宿泊学習にいくときは」

僕は、小学部5年生の〇〇です。11月2・3日に昭和の森に宿泊学習に行きます。学校には朝8時30分に集合して小湊バスにのっていきます。席は・・・



社会性の指導 1

レストランで、友だちを押しつけてドリンクバーに向かったり、順番が守れなかったりするA君が、ルールやマナーが守れるようになることを目標とした事例

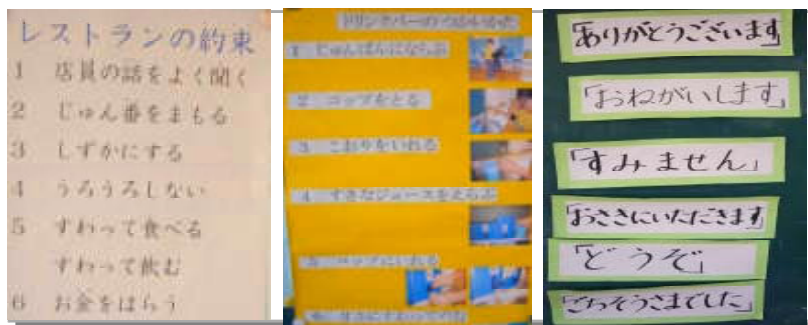
普段の生活でレストランに行く経験が少ないためルールやマナーを知らなかったり、会話が苦手な相手に上手に気持ちを伝えることができなかったりするA君に、ルールやマナーが学習できるような授業(生活単元学習)を計画しました。写真や文字が理解できるA君には、以下のような約束表や手順表を作成しました。

【授業内容】

約束表や手順表を用意してマナーやルールを確認する

教室内の仮想レストランで友だちと一緒にロールプレイを行う

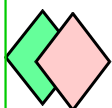
上手にできたことを評価する



【授業で使った約束表や手順書等】

上記の授業を行事当日まで数回繰り返し行いました。

《結果》修学旅行当日は手順表等をコンパクトにまとめたマナーブックを持参し、上手にレストランの利用ができました。



社会性の指導 2

ゲームに負けると大泣きしてパニックになってしまうB君に対して、ゲームに最後まで参加することを目標とした事例

ゲームに負けたときの気持ちの処理ができなかったB君に、「得意な文章が読め理解できる」ことを生かした指導を行いました。B君の気持ちにより添うソーシャルストーリーを書き、ゲームの始まる前に一緒に読んで「負けたりしたときにはどうしたらよいのか」を確認しました。

「ゲームをするときには」

ぼくは、〇〇小学校4年生の△△です。

ぼくは、友だちや先生とゲームをするのがだいすきです。

ゲームは、かつときもあれば、まけるときもあります。

かったときは、うれしいです。

まけたときは、ざんねん・くやしい・イライラしたきもちになることがあります。

かったら「やったー！うれしい！！」とよろこびます。

まけてもだいじょうぶです。「もう1かいゲームをやってください」といえばいいのです。

ないたり、おこったり、さわいだりしないで、つたえようとおもいます。



こんなソーシャルストーリーを作りました

《結果》負けたときはやはり悔しそうですが泣かないでゲームに参加できるようになりました。

他の場面でも勝敗にこだわることの多かったB君ですが、ソーシャルストーリーを書いてもらい確認していく中で少しずつ自分の気持ちを伝えられるようになりました。

(2) わかりあえるコミュニケーションのために

コミュニケーションの力を育てるポイント

- コミュニケーション ・ 教員と子どもの安心できる関係づくりが基本となる。
- 受容 ・ 理解 ・ 一人一人の理解レベル（実物，写真，文字，言葉等）に合わせて伝える。
 - ・ 言葉がけは，穏やか（音量に配慮）に，短くする。
- 表出 ・ 表現 ・ コミュニケーションマインドを育てる。
 - 適切な表現を教え，それができたときに十分に受け入れる。
 - ・ 児童生徒ができて，周囲に伝わりやすい方法を教える。
 - ・ いろいろな場面で伝えられるように，場面場面で教えていく。

自分の気持ちを伝えられるようにする支援の手順-(例)急に怒り出すA君

コミュニケーション(表現)の様子を手段・内容面からチェックする

表現手段 表現内容	直接的な動き	クレ ー ン	実 物	カード				発 声	発 語	指 さし	書 字	サイン・身振り	不適切な行動
				写 真	絵 画	線 画	ひらがな カタカナ						
要 求	○		○										
要求内容:物	○		○										○
要求内容:活動	○												○
援 助	○												○
排泄の予告	○												
体調不良													
拒 否	○												○
注意喚起													
質問への応答:選択			○										
情報の伝達													

○:よく使う表現 △:たまに使う表現

「コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)」HP参照

すでに獲得しているスキルは？不適切な表現はないか？どのような場面で使われるか？確認をする

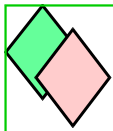
・ A 君は，直接的な動きで表現することが多く，急に近くの物や人を叩いて怒り出すこともあります。→理解できる実物を使って自分のしたいことを伝えられるようにする。

使える場面
・ 相手を広げる

不適切な表現は容認される手段に置き換える

・ 教室内にコミュニケーションボードを作り A 君の行きたいところに関係する実物(体育館は紅白帽子等)を用意しました。そこに行くときには実物を取り出し見せながら言葉がけしました。しばらくすると，行きたいときに自分から実物を持ってくるようになりました。

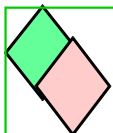
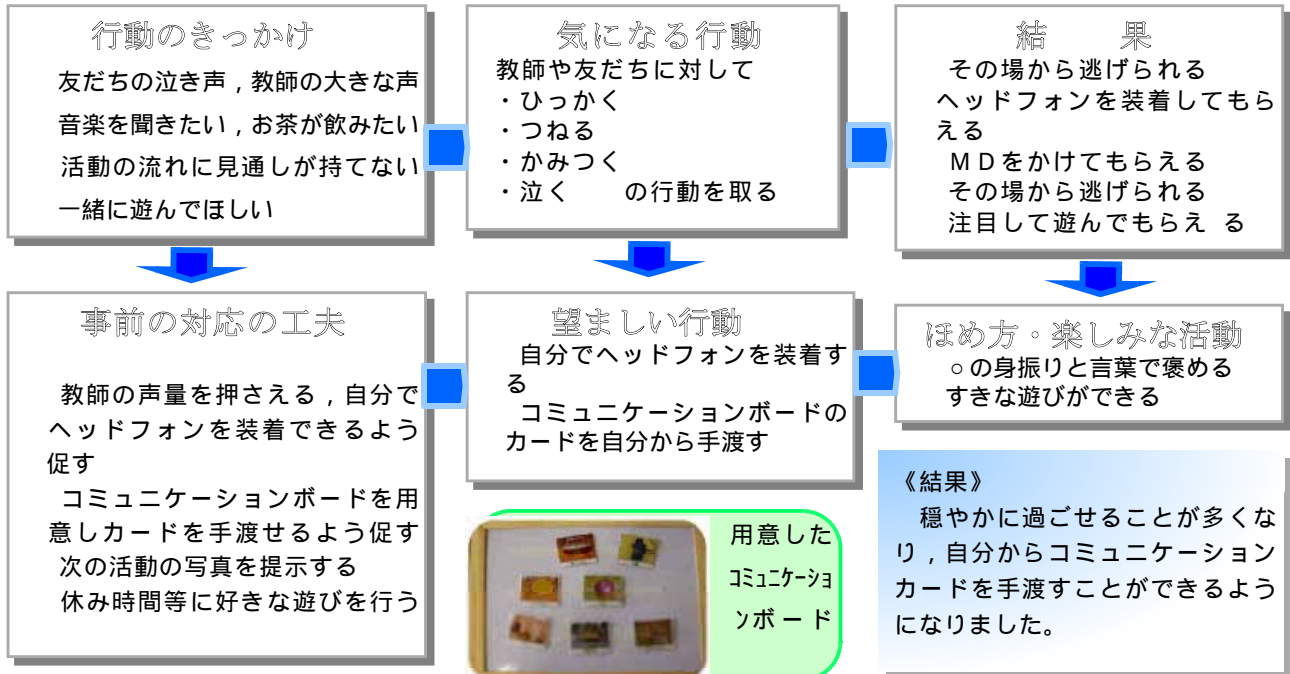
新たなスキルを教える(指導しやすい場面の設定をする)



コミュニケーションの指導 1

他者へのつねりやひっかかり行動が見られる B さんに、適切に自分の要求をつたえられることを目標とした事例

1 ～ 2 語の言葉がけが理解できる A さんの指導(気になる行動の整理と対応)について、次のように考えました。



コミュニケーションの指導 2

給食で嫌いなデザートがでたときに強く拒否したり，口から吐き出したりする C さんに「食べない」と言えることを目標とした事例

話し言葉によるコミュニケーションがなく，「食べたくない」「残したい」という気持ちを伝える手段を知らない C さんに，理解できる写真や絵を使い，次のように指導をしました。



・食べる，食べない(いらない)という絵カードを給食の横に置きます



デザートを示し「食べる」「食べない」の方に移動しながら C さんの様子を確認します。

「食べない」と言ったら，食べない方に置き，そのままにします。「食べる」と言ったら，食べやすい状況にし，C さんの前に差し出します。

繰り返す中で 2 枚の「カード」と「食べる・食べない」の関係を覚えるようにします。

《結果》嫌いなデザートは「食べない」とはっきりと伝えることができるようになりました。

家庭でも自分の意思を伝えられるようになり，家族からの無理な押しつけもなくなり互いの関係改善につながりました。

(3) 見通しを持つために

スケジュール作成と活用のポイント

- ◆「いつ」「どこで」「なにがあるのか」という見通しを伝える。
- ◆スケジュールを伝えるときは、児童生徒に理解しやすいような内容・形態にする。
- ◆指導者側の一方的な指示ばかりにならないように本人の気持ちを考える。

スケジュールの作成と活用の手順 (例)Bさんの場合

どんなスケジュールがいいのか考える

- ・次ページのチェックリストを使用し、スケジュール作成に必要な内容をチェックする。

スケジュールを作成する

- ・写真でカードを作成し、3つ分を提示する。

スケジュールを伝える

- ・以下の手順でスケジュールを使えるように指導する。
 - ア スケジュール表の写真カードを取る
 - イ 写真カードを持って活動場所まで移動する
 - ウ 活動場所でカードのマッチングをする→活動を行う
 - エ 活動後、手渡された「予定確認カード」を持ってスケジュール表まで戻る
 - オ 次の写真カードを取る
- ・援助を少しずつ減らし(身体介助→指さし→見守り)自立できるようにする。

スケジュールを使って一人で移動できるか様子を見る

使える

使えない

再度、スケジュールに必要な
内容のチェックを行う

【再度チェックの結果】

理解できる情報	写真	○→
	実物	○→
理解できる量	3つ	○→
	2つ	→○

スケジュールの修正→スケジュールを伝え様子を見る

自立的な行動 ・ 安定した適応行動



〔作成したスケジュール〕



〔修正したスケジュール〕

スケジュールを作成するためのチェックリスト(試案)
(例) 小学部 氏名 Bさん

項目	記入者	
	記入日	19年 ○月 △日
確実に理解できる情報	実物	☐
	色(マッチング)	☐
	写真(背景あり・なし)	☐
	絵(カラー・白黒)	
	線画	
	シンボルマーク	
	ひらがな・カタカナ	
理解できる量・時間	漢字	
	その他()	
	1つ	
	2つ	
	3つ	☐
	4つ	
	半日	
活動の動機付け	1日	
	1週間	
	1ヶ月	
	その他()	
	1回ごとにあるとよい	
	2~3回ごとにあるとよい	☐
	半日ごとにあるとよい	
理解しやすい提示	1日の終わりにあるとよい	
	1日以上先でもよい	
	その他()	
	手渡し	
	固定(1つずつ)	
	固定(複数)	☐
記憶	持ち歩き(ボード)	
	持ち歩き(ノート)	
	その他()	
	カードを持って移動	☐
操作	覚えていられる(どの程度)	
	カード等を取る	☐
	カード等を裏返す	
使用するスケジュール	その他()	
	具体的なスケジュールの案	

実物・色(同色のマッチングが可能かどうか)・写真・絵・線画・シンボルマーク・文字等のどのレベルがもっとも理解しやすいか、確実に理解できるものは何か。

どの程度先まで見通せるか、情報の量はどの程度が理解しやすいか。

好きな活動、物にはどんなものがあるか。

一つ一つ手渡しされた方がいいか、スケジュールを見に行く合図があることで固定式のスケジュールを自分で確認に行けるか、ボードを持ち歩けるか、システム手帳のようなスケジュールが書き込まれたノートが使えるか等。

次の予定の記憶を活動場所まで保持できるか、刺激に反応し活動がそれやすくないか。

手指の操作がどの程度できるか、操作しやすい形は何か。

スケジュールチェックリスト(試案)
は総合教育センターHP参照

(4) 認知の力を高めるためには

指導のポイント

初めに、興味・関心を生かした教材や活動で人に応じる気持ちや学習態勢を作る。

次に、発達水準を捉え、その発達水準の課題から指導を始める。

認知の偏り(長期記憶が得意、全体像をつかむのが苦手等)があることを踏まえながら、認知処理の特性(シングルフォーカス、継次処理が得意等)を生かした方法で指導する。

「何を」「どう行うのか」「どうしたら終わりか」を具体的に知らせる。

認知の力を高めるための指導方法(例)

① 認知・言語促進発達プログラム(あらゆるタイプの発達障害児のための指導プログラム)

② 太田ステージ(自閉症を対象に開発された指導プログラム)

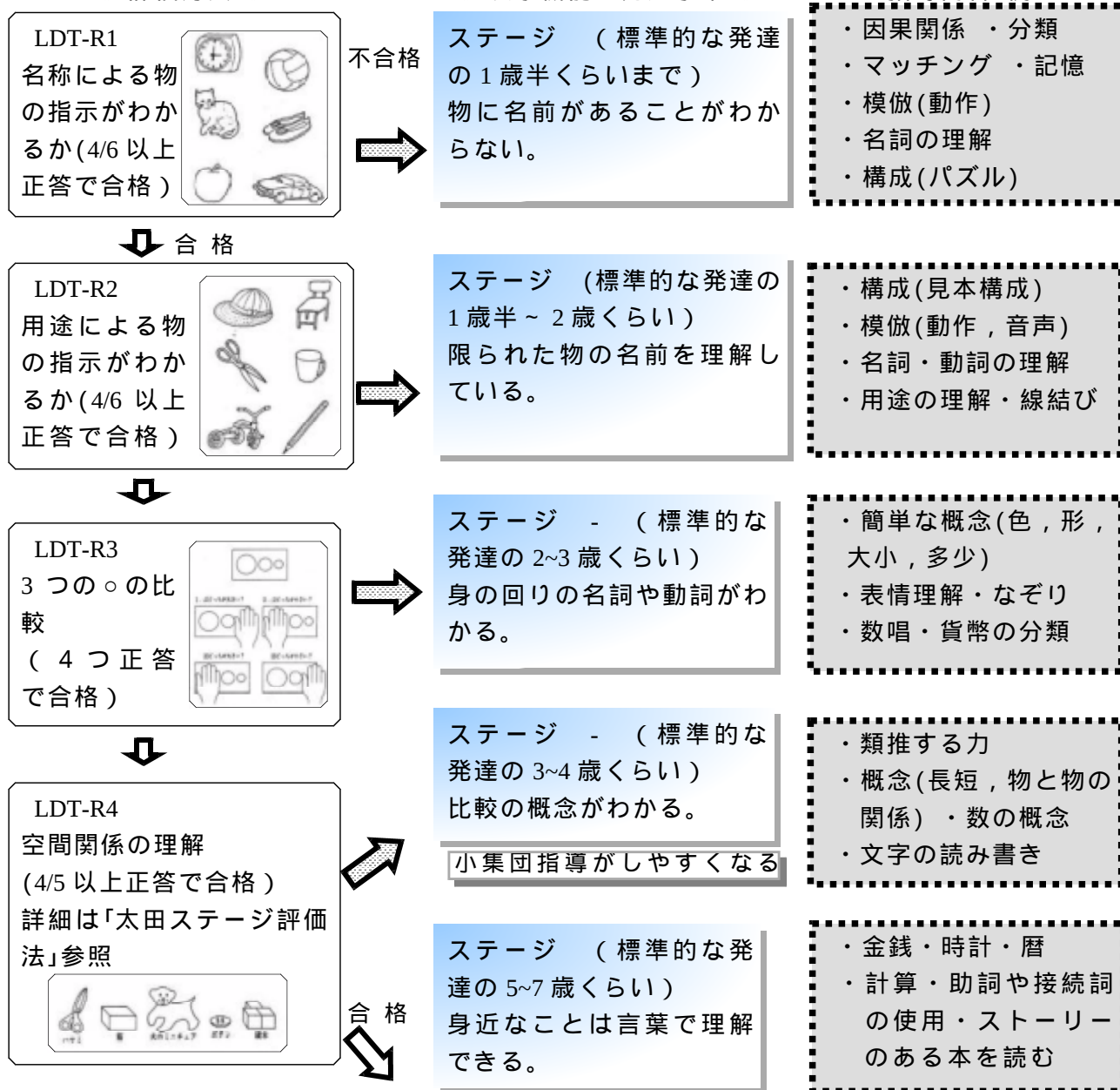
等があります。

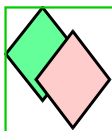
【参考 太田ステージの評価 と 指導内容例】：発達にあった課題は子どもに自信をつけます。

《 評価方法 》

《 表象機能の発達水準 》

《 指導内容 例 》





認知の指導 1

ひもや水が好きで人とかがかわることが少ないA君に、個別学習を通し、相手に「合わせる」ことを目標とした事例

印や枠を意識し簡単な形を見分けることができますが、人への意識が弱く相手に合わせようとしないA君に一对一の個別学習場面での学習を通し、次のようなステップを踏んで指導しました。

ステップ1・・・人との心地よい関わりを深め教師との関係を作る

A君ができる課題を用意し、行ったらA君にわかるように「ま～る」といいながら手のひらに○を描いたりくすぐったりする。課題ができた時に教師に褒められて(認めてもらって)嬉しいという関係を作る。

ステップ2・・・自分の身体の動きを意識し相手の動きに合わせる

教師が差し出した手にパチンと手合わせすることができたので、教師の手の位置をA君の顔の上下左右→万歳等と変え、さらにバー等の道具を持って教師の動きに合わせられるようにスモールステップで指導を行う。

ステップ3・・・教師の作った見本に合わせて作る

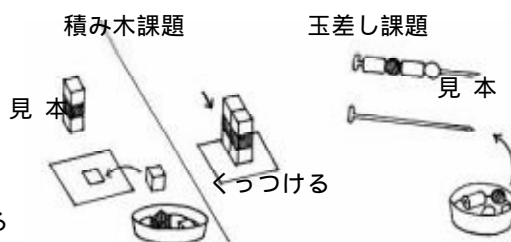
積み木課題のポイント

見本の提示：初めは教師が作る様子を見せる→机上ついたて等を使って見えないところで作る。

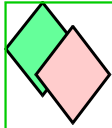
最後の確認：見本とA君が作った積み木をくっつけ確認。

玉差し課題のポイント

玉の渡し方：初めは一つずつ渡す→使う数を皿に入れる



《結果》 教師からの働きかけを期待したり、体育の準備体操で教師の動きの模倣ができるようになり、人との関わりを楽しんだり生活が広がったりしてきている様子が伺えます。



認知の指導 2

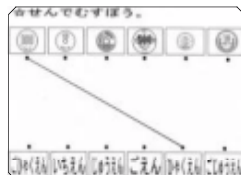
買い物学習に行った際、財布の中にある硬貨を全部出して支払うB君に、硬貨を数えることができることを目標とした事例

100 までの数の読み書きや繰り上がりのある足し算ができるB君ですが、硬貨の種類がわからないようだったので次のようなプリント教材を中心に指導を進めました。

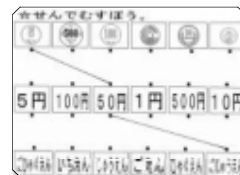
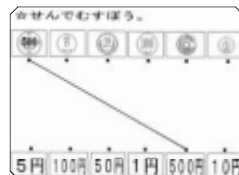
1 金種名を覚えよう



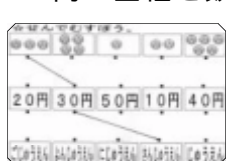
【なぞりタイプ】



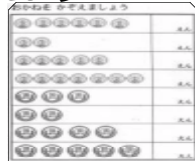
【線結びタイプ】



2 同一金種を数えよう

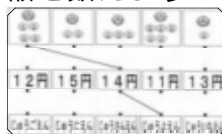


【線結びタイプ】



【金額記入タイプ】

3 他金種を含む金額を数えよう

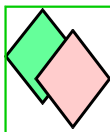


【線結びタイプ】

《結果》

1 円,10 円,100 円の硬貨の中から 14 円,240 円等の金額をそろえることができるようになりました。プリント教材は、繰り返し宿題でも取り組むことができ効果的でした。

(5) 余暇を上手に使うには



余暇の指導 1

深夜や早朝など時間を選ばずに際限なくパソコンをやっていたAさんが家庭で約束を守ってパソコンを楽しむことを目標とした事例

言葉で伝えられた約束を思い出すことが難しかったり、気になる物をすべて印刷しないと納得できなかったりするAさんに対し、得意な「手順表などの見てわかる支援」を活用し、まず学校で指導し、同じ方法で家庭でも取り組むようにしました。

1 パソコンの使い方を手順表で示す

文字を打つ勉強をする
「○○先生印刷してもいいですか」
印刷する
ファイルにとじる
「○○先生インターネットしてもいいですか」

2 印刷できる枚数を示す



3 終わりの時間を示す

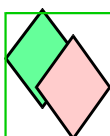


4 理由を紙に書いて示す

例 パソコン室は使えません。高等部が使います
↓
教室でパソコンをします。

《結果》

家庭でも同じ方法で支援することで約束を守ってパソコンを楽しんでいます。母曰く「伝え方に気をつけるだけで違うんですね」とのこと。



余暇の指導 2

トイレに行く際に配慮が必要で、買いたい物の要求が抑えにくいB君が充実した週末を過ごすことができることを目標とした事例

B君は外出が好きで、簡単な文字によるスケジュールを理解できますが、外出先のトイレ使用に支援を必要とするため一人での外出は難しい状態にありました。そこで、次のように支援を進めました。

1 地域の支援機関を探す

(問い合わせ先)
・市役所 障害福祉課
・中核地域生活支援センター
・地域の特別支援学校

(支援機関を決定するとき)

・本人と保護者で見学する
・本人の意志を確認しながら決定する

2 支援機関と連携する

「個別支援会議」の開催

(参加者)
保護者、支援機関、学校

(内容)
個別指導計画の「生徒の実態」、学校で使用している手順カード等の共通理解

《結果》

B君にかかわる人たちが直接会って話し合いができたことで連携がスムーズにきました。

学校と同じように支援がされるのでB君も安心です。

月2回の週末外出を楽しみにして自分の予定表に「東京タワー」等と書き入れています。

その後 外出の際の買い物代は家庭で手伝いをして貯めるようになりました。家族以外の人との外出は精神面での成長を促し、外出する日には自分から財布等を準備しヘルパーさんを待つようになりました。

Ⅳ 学校生活を通じて支援していくために

1 自閉症の特性に応じた教育課程

自閉症のある児童生徒は、多くの困難さを抱えているため重大な二次的障害を引き起こすことも少なくありません。しかし、適切な指導や対応が学校生活を通じてなされることにより、二次的障害を予防し学校や地域社会で適した生活を送ることができるようになることが知られています。そのために、学校卒業後の生活まで視野に入れた一貫した教育計画(教育課程)が必要です。

教育課程編成・実施上の留意事項

自閉症の特性に応じた指導内容を明らかにします。

「社会性，コミュニケーション，見通し，認知，余暇」が大切。

具体的な指導内容を選定します。

巻末の指導内容表(例)を参照。

指導形態を考えます。

「領域・教科を合わせた指導」「教科別の指導」「領域別の指導」等，学校の特色に応じた形態で。

教科名等を小，中，高等部の教育課程上に位置づけます。

3・6・12年間を見通し，系統的な指導ができるようにすることが大切。

指導の際には，自閉症のある児童生徒は般化が苦手なこと，感覚の過敏があったり生活リズムを整えることが難しかったりすること，問題の解決方法がわからず不適切な行動を取ってしまうことがあること等に配慮することが大切です。

教育課程(日課表と構造表)のモデル案を次ページに示します。



2 教育課程の実際(日課表と構造図)

特別支援学校 モデル案1

小学部日課表(普通学級)

曜日		月	火	水	木	金
1	9:15	日常生活の指導 (着替え、排泄、係活動、朝の会など)				
	10:00					
2	10:00	体育				
	10:30					
3	10:45	ことば・ かず	生活単元学習		ことば・ かず	生活 単元 学習
	11:30					
4		日常生活の指導 (給食、歯磨きなど)				
5	13:15	自立活動 遊び学習				
	13:45					
6	13:45	日常生活の指導 (着替え、帰りの会)				
	14:00					

小学部構造図(普通学級)



小学部では「ことば・かず」「自立活動」の時間を、自閉症の児童の特性に応じて学習を行う時間としました。「ことば・かず」では「見通し、認知」を「自立活動」では「社会性、コミュニケーション」に係わる内容を指導します。

中学部日課表(普通学級)

曜日		月	火	水	木	金
校時						
1	9:10	日常生活の指導（着替え・朝の会）				
	10:00	自立活動		課題学習		
2	10:05	国語・ 数学	生活単元学習 作業学習 ※総合的な学習の時間			国語・ 数学
	10:55					
3	11:00	保健体育				保健体育
	11:30					
4	11:35	日常生活の指導（給食・歯磨き）				
	12:45					
5	12:30	音楽1年生単 2・3年	学部音楽	※	音楽3年生単 1・2年	音楽2年生単 1・3年
	13:40					
6	13:40	日常生活の指導（着替え・帰りの会）				
	14:30					

中学部構造図(普通学級)



中学部では「国語」「数学」「自立活動」の時間を、自閉症の生徒の特性に応じて学習を行う時間としました。

高等部日課表(普通学級)

曜日	校時	1年	2年	3年	火	水	木	金
1	9:00 9:30 10:15	教科 / 個別の課題学習 自立活動 日常生活の指導(朝の会)						
2	10:20 11:10	家庭	美術	音楽	作業学習	作業学習	作業学習	体育 音楽 家庭
3	11:10 12:00	美術	家庭	国語				音楽 国語 美術
4	12:00 12:30	日常生活の指導(給食)						
5	13:00 13:30	職業	職業	体育	作業学習 / 総合的な学習の時間	学級活動	職業・国語 / 総合的な学習の時間	国語 体育 職業
6	14:00 14:30	日常生活の指導(掃除・着替え・帰りの会・下校)						

高等部構造図(普通学級)



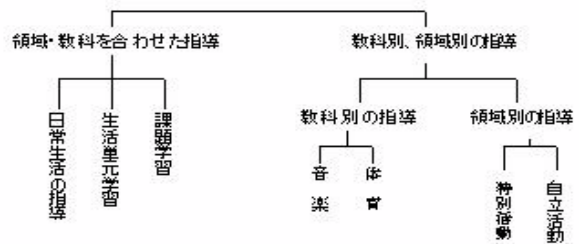
高等部では「国語」「数学」「職業」「自立活動」の時間を、自閉症の生徒の特性に応じて学習を行う時間としました。

特別支援学校 モデル案2

小学部日課表(普通学級)

		月	火	水	木	金
1	9:00	日常生活の指導(着替え、排泄、朝の会、係活動)				
	10:05	課題学習(国語、算数、自立活動等を合わせた指導)				
2	10:15	朝の運動(体育、自立活動)				
	10:50					
3	11:00	体育	音楽	生活単元学習		
	11:45					
4	12:00	日常生活の指導(給食)				
	12:55					
5	13:20	課題学習(国語、算数、自立活動等を合わせた指導)				
	13:45					
6	13:45	日常生活の指導(帰りのしたく、帰りの会)				
	14:30					

小学部構造図(普通学級)



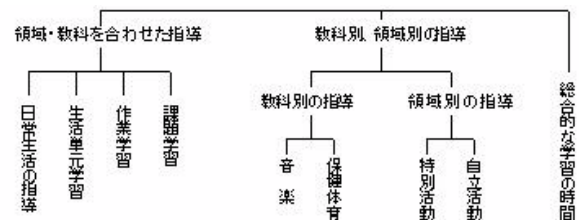
小学部では、朝の「日常生活の指導」と「課題学習」を、自閉症の児童の特性と学級の実態に応じて弾力的に学習を行う時間としました。「日常生活の指導」では、「見通し」を、「課題学習」では「社会性、コミュニケーション、認知」に係わる内容を指導します。

中学部日課表(普通学級)

※時期によっては午前中が作業学習になる

		月	火	水	木	金
1	9:00	日常生活の指導(着替え、係活動、朝の会等)、朝の運動(保健体育)、自立活動				
	10:00					
2	10:05	課題学習 (国語、数学、自立活動等を合わせた指導)				生活単元 学習
	10:55					
3	11:00	生活単元学習		体 育		
	11:50					
4	12:00	日常生活の指導(給食)				
	12:50					
5	13:00	音楽	生活単 元学習	音楽	総合的な 学習の時間 (すいかタイム)	特別 活動
	13:50	生活単元学習				
6	13:50	日常生活の指導(着替え、係活動、帰りの会等)				
	14:30					

中学部構造図(普通学級)

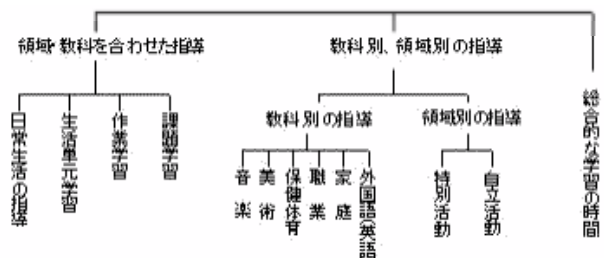


中学部では、朝の「日常生活の指導」「朝の運動(保健体育)」と「課題学習」を、自閉症の生徒の特性に応じた自立活動の指導を個々に応じて弾力的に行える時間としました。

高等部日課表(普通学級)

		月	火	水	木	金
1	9:00	日常生活の指導(ホームルーム)、				
	9:20					
2	9:25	保健体育、自立活動				音楽
	10:15					
3	10:25	作業学習				職業家庭自立活動
	12:05					
4	12:05	日常生活の指導(給食)				
	12:55					
5	13:00	課題学習(国語、数学、自立活動等を合わせた指導)			選択教科	特別活動/委員会/部集会
	13:50					
6	14:00	日常生活の指導(清掃、着替え、ホームルーム)				
	14:30					

高等部構造図(普通学級)



高等部では、朝の「日常生活の指導(ホームルーム)」「保健体育」「自立活動」「課題学習」を、生徒に応じて時間を弾力的に使えるようにしました。

3 個別指導計画の効果的な作成

「個別指導計画」は一人一人の指導目標や指導内容・方法の明確化を図るものです。自閉症の特性や必要な指導内容、適切な指導方法を踏まえ記入することが望まれます。

(例) A 特別支援学校 高等部 B 君
1 生徒の実態 (保護者と学校が共通する)

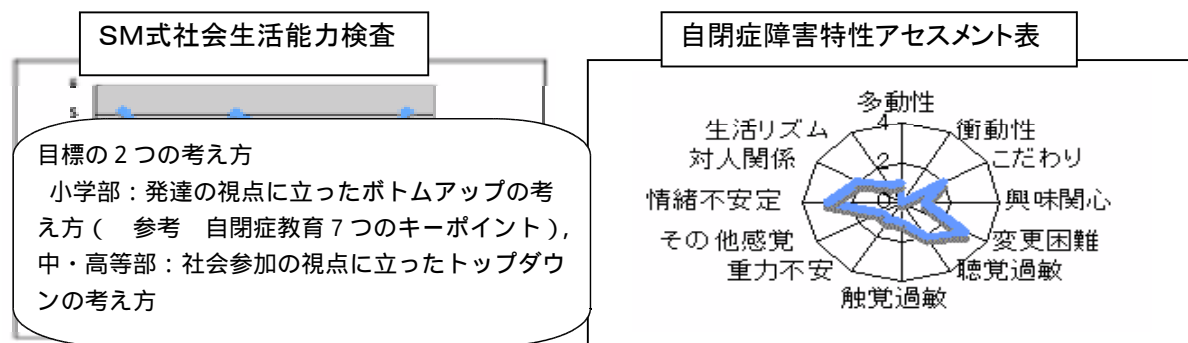
高学部・年		氏名	様子はなるべく肯定的に表現します
現在の様子 (実態)			家庭より
生活面	・身辺面はほぼ自立している。 ・決められた手伝いや係り(洗濯物干し、食器洗い等)を一人で行うことができる。		スケジュールに合わせて自分で起床、就寝も行います。
学習面	・小学校3、4年生レベルの漢字の読み書きができる。昨日の出来事を2～3語文で話したり書いたりすることができる。 ・2～3桁のくり上がりくり下がりのある計算をしたりかけ算九九を行ったりできる。時計の時刻を読むことができる。 ・並縫い等細かな作業もできるが、固めのキャップを取る、重い物を持つ等力を要することは苦手である。 ・朝の活動や作業場面では文字でのスケジュール表にそって一人で活動できる。		本人が一人でできる算数や国語のドリルを行っています 認知、見通し等について記入します
社会面	・簡単な質問や要求の選択に応じることはできるが、自分から要求を表現することは殆どなく、困った時やわからない時には止まったままでいたり側にいる人の手をぎゅっとつかんだりする。 ・言葉による指示には注意を向けることが難しい。文字で伝えたと理解して行動できる。 ・状況理解が弱く、着席場所に印をつける等の配慮が必要である。 ・集会の時間や心理的に不安定になってきた時など、読んでいる絵ビデオ(トーマス等)の台詞を言うことが多い。 ・予定変更にも弱く、不安定になって近くの人にしがみついたり、つねったりする。 ・大きな声や強い口調で言われると不安定になる		学校での出来事を引きずって家庭で非常に不安的になることがあります。 社会性、コミュニケーション、余暇等多動、衝動性、こだわり、感覚過敏、パニックの状況について記入します
健康面	・肥満傾向がある。		
その他	子どもの好きなことや苦手なことを把握し、環境調整や楽しみ等に生かします		
得意なこと・好きなこと等	絵本を読む 制作活動(版画等)		
苦手なこと・避けるべきこと等	大きな音や声、急な予定変更、急がせる		
指導方針	発達を促したり適切な行動を増やしたりしていくための方向性 不適応行動の原因を分析し、不適応行動の減少・適応行動の増加を図るための方向性を示します。		
	文字や図等の視覚的な手がかりを使って見通しが持てるようにしたり、状況理解を促したりすることにより、安定して活動したり、予定変更や新しい活動への受け入れを高めたりすることができるのではないかと。 要求や困ったこと等を自分から伝える力をもつことにより、次の活動にスムーズに移ったり、気持ちを楽に切り替えたりできるのではないかと。 家庭と協力しながら、一人で買い物をする、自力通学をする等の社会経験を広げる。		

2 本人・保護者の願い（年度末に用紙を配布し，始業式に新担任に提出）

A：家庭や地域生活での願い・・・省略

B：学校での学習への願い・・・省略

3 その他の実態把握



4 個別指導計画

年間目標	安定して活動したり予定変更や新しい活動を受け入れたりする力を高める。（行動調整） 自分から伝えたり受け入れる力を高める。（コミュニケーション） 経験を広げる。（地域生活） 力を高める。
------	--

< 前期 >

○：達成

：継続

-：

目標修正

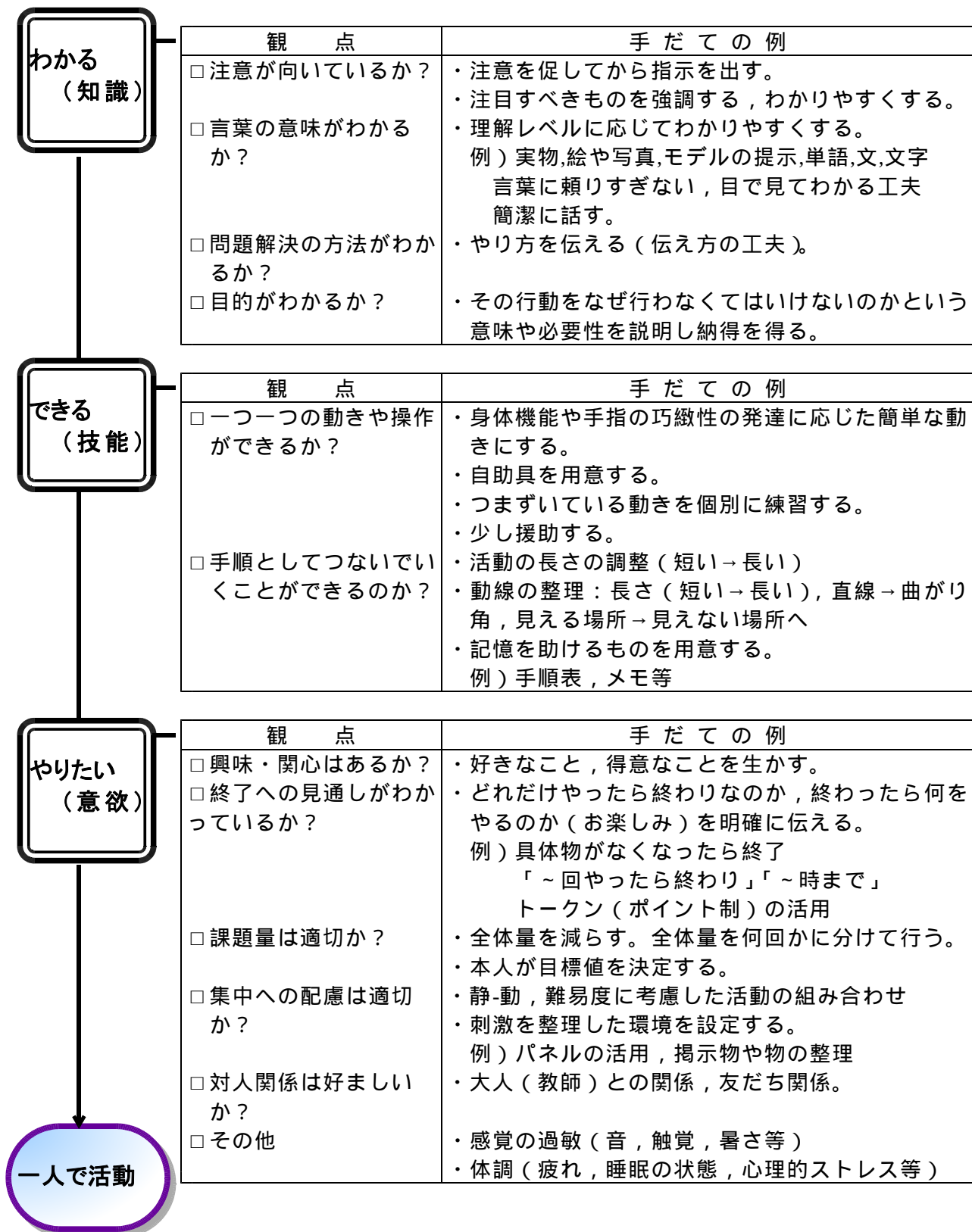
目標	手だて	学習の様子	評価
日常生活 ○自分から係り活動を行う （電気・戸締まり）	手だての主語は教師。「～させる」という表現は避け、目標達成のための意図的、具体的な手だてを記載します	・出る時に手順書に気づき手順を守りし	○
作業学習 （木工班） ○組み立ての仕事をするための足りない道具を教師に伝える。 ○釘が曲がってしまった時に教師に伝える	・準備リストをチェックしながら必要な道具を用意するようにする。道具置き場に報告を受ける教師がいる。 ・手元に「～先生、くぎが曲がりました」というカードを置いておく。	・足りない道具があった項目で用意する動きが止まってしまいました。そこで、リストに○×のチェックをするようにしたところ、全ての項目をチェックし終わると教師に報告す	○

個別指導計画の作成・運用については「特性を踏まえたアセスメント→継続した支援が必要な内容に配慮し，本人・保護者の願いも含めた年間目標の設定→短期目標への具体化→指導場面の設定→目標を意識した指導→明確な評価→子どもが安心して次の学年が迎えらるような引き継ぎ」と進めることが大切です。

（国立特殊教育総合研究所「養護学校における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究」プロジェクト研究報告書 2006）

児童生徒が一人で活動をや리きるための観点

日々の指導において、次のような観点を大切にしながら手だてを講じていくことで、児童生徒のことができることが着実に増えていきます。



〔コラム〕自分の力を発揮して働き、みんなと共に暮らしていくために

～ 養護学校在校時から卒業後の福祉就労施設での生活へ ～

現在20歳のTさんは、養護学校卒業後、作業所で働いている。高校部から、自閉症の特性に応じた支援を家庭と学校で連携して取り組み、思春期の混乱を乗り越え、卒業後も、家庭と作業所での連携が実を結び、自分の力を発揮して仕事に取り組み、自分の好きな活動で周囲の人とのコミュニケーションを楽しんで生活している。

高校部で：周りのみんなのペースを理解するために

給食を食べ終わると、すぐに食器の片付けをしようとしていたTさんの机にルールカードを貼った。Tさんが立ち上がるたびに教師は声をかけていたが、カードの提示により、ぴたっと時間まで待つことができるようになった。このような工夫の積み重ねで、毎回の指示を出さなくても、「みんなと共に」生活することが楽しくできるようになった。



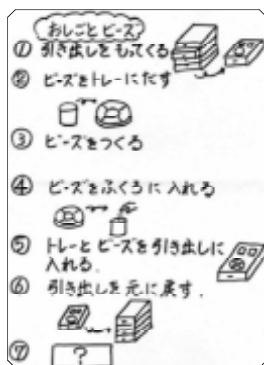
【ルールカード】

家庭で：意欲を持って働くために

作業は手順を理解するとしっかり取り組める。提示されて取り組むだけでなく、自分から意欲をもって働いてほしいと願い、家庭では様々なお手伝いに取り組んできた。お手伝いは「お風呂掃除、洗濯物たたみをしたらお小遣い〇円」とルールを決め、大好きな電車での旅行貯金につなげることで、目標をもって働くことができるようになった。

施設で：毎日の作業の中で、自分で決めたり、意思を伝えたりして働いてほしい

Tさんは毎朝、一日の生活の流れを確認して、自分から作業に必要なものの準備をし、手順表を見て、緻密な仕事ぶりで働いている。もちろん、視覚的にわかりやすい支援が工夫されている。途中、私語があっても、自分で気持ちを切り替えて「お仕事がんばる！」とさっと取りかかる青年らしさもある。



【おしごとビーズ手順表】

「おしごとビーズ」の手順表の最後に ? カードがあり、「スリッパ拭き」「コーヒー粉袋詰め」など何枚かの「おしごとカード」の中から、自分で選択して、次の仕事を決めるように設定されている。仕事量の確保が当初の目的だったが、Tさんにとっては自分の意思を伝える大切な場面でもある。

仕事の合間の休憩時間には大好きな曲を聴いたり、新聞の株式欄に載っている会社名を見て英語クイズを職員と行ったりして過ごしている。

好きなことがあるから、仕事を頑張る励みになり、気持ちの切り替えもできる。得意で好きな英語を、コミュニケーションの手段として楽しく活用できていることが、何より素敵である。職場の仲間の方々も、人とかかわりたいというTさんの気持ちを自然に受けとめており、共に働くことの意味を実感した。



【視覚支援と完成品】

【平成 19 年度 調査研究講師及び研究協力員一覧】

講 師 帝京大学 教授 大南 英明

研究協力校 県立柏特別支援学校(校長 菱沼 正) 県立富里特別支援学校(校長 長澤隆壽)

研究協力員

千葉県発達障害者支援センター 副センター長 田熊 立

県立柏特別支援学校 教諭 高畑 和子 県立富里特別支援学校 教諭 西村 則子

県立柏特別支援学校 教諭 福島 拓 県立富里特別支援学校 教諭 鈴木 彰典

県立柏特別支援学校 教諭 中村 公信 県立富里特別支援学校 教諭 越川 俊哉

(県立柏特別支援学校担当)

(県立富里特別支援学校担当)

県立つくし特別支援学校 教諭 加藤 悦子 県立印旛特別支援学校 教諭 田中 美貴

県立つくし特別支援学校 教諭 後藤 将裕 県立槇の実特別支援学校 教諭 佐々木大輔

柏市教育委員会 指導主事 青木 孝予 富里市立富里南中学校 教諭 稲葉 光政

柏市立中原小学校 教諭 松野 恵 成田市立加良部小学校 教諭 秋山 るみ

柏市立南部中学校 教諭 橋本あおい 十倉厚生園コーディネーター 三橋 郷留

【引用文献・参考文献】

- 1 「自閉症治療の到達点 2 認知発達治療の実践マニュアル 自閉症の Stage 別発達課題」太田昌孝・永井洋子編著 日本文化科学社(1992)
- 2 「NCプログラム 認知・言語促進プログラム」津田望 東敦子監修 コーレル社 (1998)
- 3 「ソーシャルスキルマニュアル」上野一彦/岡田智 編著 明治図書(2006)
- 4 「コミック会話—自閉症など発達障害のある子どものためのコミュニケーション支援法」キャロル グレイ(著), 門眞一郎(翻訳) 明石書店 (2005)
- 5 「ソーシャル・ストーリー・ブック—書き方と文例」 キャロル グレイ (著)服巻智子(翻訳) クリエイツかもがわ (2005)
- 6 「自閉症支援 初めて担任する先生と親のための特別支援教育」井上雅彦 井澤信三 著 明治図書(2007)
- 7 「見える形でわかりやすく TEACCH における視覚的構造化と自立課題」服巻滋 訳 エンバワメント研究所(2004)
- 8 「自閉症の児童生徒のための教育課程の編成について 新たな指導の形態として『社会性の学習』の創設」 東京都教育委員会(2006)
- 9 「自閉症の障害特性に応じた教育のガイドライン 自閉症の教育課程の編成と『社会性の学習』」東京都教育委員会(2007)
- 10 「自閉症児の教育課程の開発」 筑波大学附属久里浜特別支援学校 (2007)
- 11 「知的障害養護学校 知的障害特殊学級の指導内容表」 帝京大学文学部教育学科 大南研究室(2003)
- 12 千葉県立柏特別支援学校 「わだち」研究のあゆみ 26 号(2007)
- 13 千葉県立富里特別支援学校 実践報告集「時計台」(2007)
- 14 千葉県総合教育センター 障害児指導の手引き「自閉症のある子どもたちのために」(2004)
- 15 千葉県総合教育センター 研究報告 第 356 号(2006)
- 16 千葉県総合教育センター 実践事例集(2007)

(資料)

指導内容表（例）

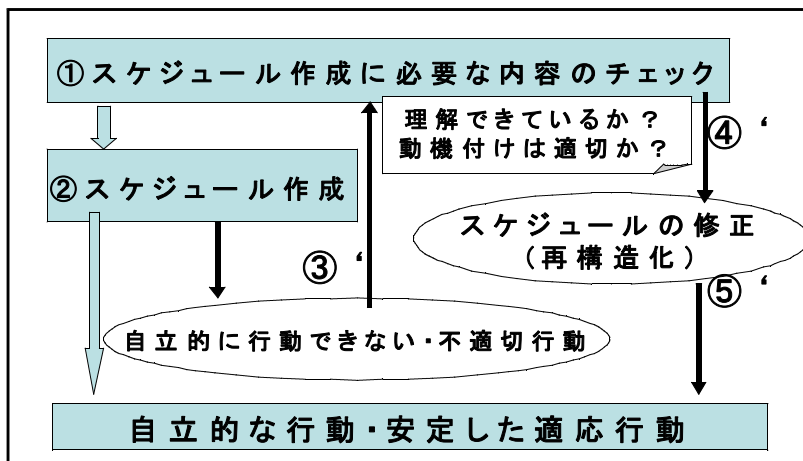
社 会 性		コミュニケーション		見 通 し		認 知		余 暇	
他者との関係を作ったり(対人関係)，社会的にふさわしい行動を取ったり(社会参加)することは，社会の中で生きていく基本的な社会的能力です。		遊びや日常生活場面でのかかわりを通し，お互いが理解できる手段を見つけ，身に付けることで，周囲とのやりとりが楽になり，安定した生活につながります。		スケジュール等を確認しながら，見通しを持った生活ができるようになることは，安心できる生活，主体性を持って生活することにつながります。		認知はすべての学習の基礎になる力です。認知が向上することにより，周囲の環境を理解しやすくなります。		一人で過ごせる趣味を持つこと，地域資源を利用すること等は，自由時間を適切に過ごすことにつながります。 卒業後の安定した社会生活のためにも小学校や特別支援学校小学部の頃から興味・関心を広げる余暇指導は必要です。	
指 導 内 容 例		指 導 内 容 例		指 導 内 容 例		指 導 内 容 例		指 導 内 容 例	
対 人 関 係	教師（身近な人）とのかかわり ・教師の働きかけに気づく ・教師の働きかけを喜ぶ ・教師の働きかけを期待する ・教師と一緒に物を介して活動する	受 容 ・ 理 解 / 表 出 ・ 表 現	・要求(ものの要求) ・要求(活動の要求) ・援助 ・排泄の予告 ・体調不良 ・拒否 ・注意喚起 ・質問への選択 ・質問への応答 ・自発的な質問 ・情報の伝達	行 動 調 整	生活に見通しを持つため（スケジュール）の要素	認 知 の 基 礎	・因果関係 ・分類(実物，色，形，絵，写真，シンボル等) ・マッチング(実物，絵，写真，シンボルの同種，異種) ・構成(パズル，見本構成，空間構成) ・記憶（聴覚・視覚） ・模倣（道具，動作，音声） ・表情理解 ・類推する力 ・名詞・動詞の理解，用途の理解 ・簡単な概念(色，形，大小，長短，多少) ・なぞり書き・模写 ・単語・文字構成	遊 び の 広 が り	興味・関心や楽しめることの広がり
	友だちとのかかわり（やりとり） ・教師の支えあり ・教師の支えなし				・理解できる情報 実物，絵・写真，線画，シンボル，文字等 ・提示する期間 次の活動，1日の1部分，1日，1週間，1ヶ月 ・活動の動機付け 1回毎に，2～3回毎に，1日の終わりに，1日以上先に ・理解しやすい提示の仕方 その都度手渡し，固定ボードの使用，自分で持ち歩く ・記憶が保持できる時間 カードを持って移動，見るのみ ・終了の操作の仕方 カードを取って箱へ，カードを返す，チェックする		・一人で遊べる活動 ・室内遊び：本，粘土，お絵描き，玩具，テレビ，ＣＤ，パソコン，ゲーム機 ・屋外遊び：遊具，自転車，なわとび		
	集団への参加 ・集団の中にいる ・周囲に応じた行動を取る						複数で楽しむ遊び ・室内遊び：トランプ，その他のゲーム ・屋外遊び：バドミントン，キャッチボール		
社 会 参 加	ルールの理解 ・順番を守る，交代する ・簡単なルールのある遊びを行う ・約束を守る，時間を守る ・交通ルールを守る（信号を守る等） ・電車・バスに料金を払って乗車する ・スーパー・レストランのレジで料金を払う	表 出 ・ 表 現	コミュニケーションの手段 ・音声言語による伝達 発語（単語，二語文以上） ・代替コミュニケーション（ＡＡＣ）による伝達 直接的な動き クレーン 発声 実物 カード（写真，絵，線画，ひらがな，カタカナ，漢字） 指さし サイン・身振り ・筆談による伝達 書字	調 整	生活の流れの示し方 ・スケジュール表を理解する ・スケジュールにそって活動する（活用場面の広がり） ・スケジュールの一部を自己選択する ・用意しておいた活動内容を組合せ自分でスケジュールを作成する ・内容を自分で考えスケジュールを作成する ・明日，1週間，1ヶ月，1年間の予定を理解する ・スケジュール変更に対応する	国 語 の 基 礎	【読み書き】 ・ひらがな，カタカナ，漢字の読み書き ・簡単な文の読み書き ・助詞や接続詞の使用 ・本，新聞等を読む	家 庭 ・ 地 域 で の 余 暇 活 動	手伝い ・洗濯物たたみ，新聞取り，食器並べ，掃除 ・買い物，回覧板を届ける，地域の行事の手伝い
	役割行動 ・係活動，生徒会活動を行う								
	マナーの遵守 （社会的マナー，公共道德を守る） ・電車・バスに整列乗車する ・電車・バス・図書館等の中で静かに過ごす ・道路にゴミを捨てない（ゴミ箱に捨てる）					活動に見通しを持つため(手順表)の要素 ・理解できる情報 実物，絵・写真，線画，シンボル，文字等 ・理解できる量 次の活動→2つの活動・・	算 数 の 基 礎	【数と計算】 ・数唱，数字の読み ・物の集まりと数字・数字の対応 ・個数を数える，数の大小比較，順序数 ・数の合成分解 【重さ，長さ】 ・重さの比較・理解 【時間】 ・時刻を読む ・長針・短針の理解 【金銭】 ・お金の種類の理解 ・お金を数える（金額を知る） ・等価関係の理解 【暦】 ・カレンダーの理解・使用 ・曜日，月日，12ヶ月の理解 ・今日，昨日，明日の理解	趣味の広がり ピアノ，ダンス，手芸，映画，カラオケ等
	自己理解 ・自分の長所・短所を知る ・自分の得意なところを補う方法を知る ・自分で得意なところを補う					活動の流れの示し方 ・手順とパターンを理解する ・絵や写真等のカードに応じて活動する ・手順表などを手がかりに複数の活動を順番に行う ・目標を選択の範囲内で設定する ・目標を考える ・自分で問題解決をしながら活動する（質問する，調べる）			福祉資源や地域資源の利用 介護ヘルパーやボランティアの利用による ・娯楽施設の利用 ・地域の行事への参加
セルフマネジメント （大人の管理のない状態で自分で自分の行動の管理をすること） ・スケジュールを自分で作成する ・自分の行動を自己管理する									

1 スケジュールを作成するためのチェックリスト(試案) ー行動調整につながるスケジュールー

① スケジュール作成のためのチェックリストの目的

個々に応じたスケジュールを作成し活用することは、見通しをもち、安心して生活ができるようになり、行動調整がとれるようになるために必要なことである。そこで、最適なスケジュールを作成し、有効に活用できるようにするために必要な項目をあげチェックできるようにした。

② 活用方法



チェックリストで評価をしてスケジュールを作成してみる。そのスケジュールで十分に自立的な行動ができればよいが、そうでない時には、再度、各項目を見直し、よりその子どもに最適なスケジュールに作り直していく。このようなスケジュールの修正（再構造化）の手続きが重要である。

また、スケジュールのためのチェックリストにより、何を使ってどのように伝えれば理解しやすいか等のコミュニケーションの理解面の実態が把握ができる。

スケジュールを作成するためのチェックリスト(試案)

学部

氏名

項目	記入者			
	記入日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
確実に理解できる情報	実物			
	色(マッチング)			
	写真(背景あり・なし)			
	絵(カラー・白黒)			
	線画			
	シンボルマーク			
	ひらがな・カタカナ			
	漢字			
	その他()			
理解できる量・時間	1つ			
	2つ			
	3つ			
	4つ			
	半日			
	1日			
	1週間			
	1ヶ月			
	その他()			
活動の動機付け	1回ごとにあるとよい			
	2~3回ごとにあるとよい			
	半日ごとにあるとよい			
	1日の終わりにあるとよい			
	1日以上先でもよい			
	その他()			
理解しやすい提示	手渡し			
	固定(1つずつ)			
	固定(複数)			
	持ち歩き(ボード)			
	持ち歩き(ノート)			
	その他()			
記憶	カードを持って移動			
	覚えていられる(どの程度)			
	その他()			
操作	カード等を取る			
	カード等を裏返す			
	その他()			
使用するスケジュール	具体的なスケジュールの案 (カードの大きさ)			

<スケジュールを作成するためのチェックリスト(凡例)>

確実に理解できる情報: 理解しやすい情報伝達の手段(理解のコミュニケーション)の把握

○実物・色(同色のマッチングが可能かどうか)・写真・絵・線画・シンボルマーク・文字等のどのレベルがもっとも理解しやすいか、確実に理解できる物は何か。

※物理的な構造化がされている教室であれば、色のマッチングにより場の移動が可能になる。また、文字がわからないレベルの子どもに写真や絵のスケジュールを使うケースが多いが、どの程度(大きさや内容等)の写真や絵が理解できるのかまで把握する。絵や写真では、確実に欠ける場合は実物の方が理解がしやすすくないかチェックする。文字が読めるようになった子どもには文字のスケジュールを使いがちだが、文字だけから活動がイメージしにくいケースもあること等に留意する。

理解できる量・時間: 一度に提示して理解できるスケジュールの量の把握

○どの程度先まで見通せるか、情報の量はどの程度が理解しやすいか

※注意の問題があり、一度に提示されると混乱してしまうもケースもあるので、作成してみたが自立的に行動できない時は提示量の調整について、再検討することが必要である。

活動の動機付け: スケジュールに入れることのできる本人の好きな活動の把握

○好きな活動、物にはどんなものがあるか。

※スケジュールを作成して失敗するケースに、スケジュールが指導者側の一方的な指示の連続になっている場合がある。活動そのものが楽しいことが一番だが、興味や関心には個人差もあり、学校生活の中で、すべての活動がその子どもにあった活動をずっと用意できるものではなく、また、苦手な活動にも取り組まなければいけないこともある。スケジュールの中で、動機付けとなることが、本人の見通しの中にうまく組み込まれていることが大事である。耐性もこうした取り組みを通して作られていく。

理解できる提示: 活用しやすいスケジュールの示し方や形態の把握

○一つ一つ手渡しされた方がいいか、スケジュールを見に行く合図があることで固定式のスケジュールを自分で確認に行けるか、ボードを持ち歩けるか、システム手帳のようなスケジュールが書き込まれたノートが使えるか等

操作: スケジュールを使用する際の操作性の把握

○手指の操作がどの程度できるかをチェックし、操作しやすい形を考える。

記憶: 記憶の保持の長さや注意集中の程度の把握

○次の予定の記憶を活動場所まで保持できるか、刺激に反応し活動がそれやすすくないか。

※こうしたタイプの子どもは、記憶を保持したり活動を思い出すために、カード等をリマインダー(思い出す手掛かりとなるもの)として持ち運ぶようにする。そのために記憶や注意に関するチェックが必要である。

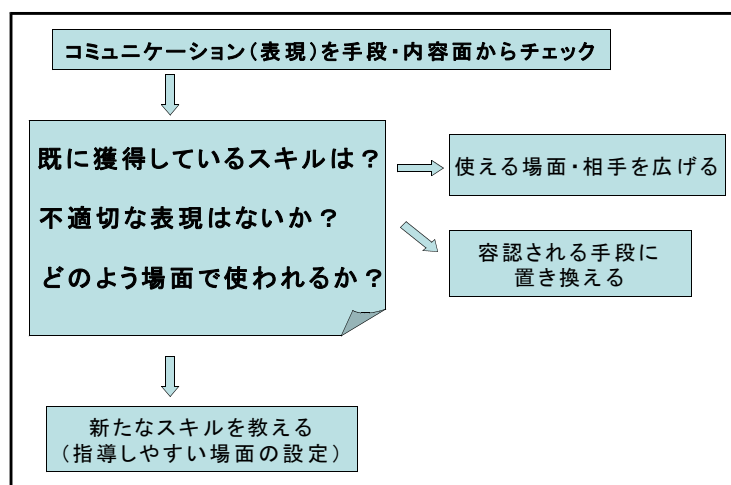
2 コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)

ーコミュニケーション(表現)の支援のためにー

① コミュニケーションのチェックリストの目的

表現面について、支援を考える手掛かりにするための実態把握のツールとして、コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)を作成した。このチェックリストは、「どのような内容をどのような手段で表現しているか」を把握するものである。表現内容については、コミュニケーションの必要度の高い内容を項目としてあげた。表現手段については、自閉症のある子どもが表現しやすいであろうと思われる手段の順番に並べてみた。しかし、そのすべてを指導していかなければいけないというものではない。

② 活用方法



生活全体の場面でのコミュニケーション活動を見直し、すでに使用している手段は何か、不適切な手段で表現していないか、どの場面で使われているのか等を把握する。

使われている手段は使える場面や相手を広げることを、不適切な表現は容認できる手段に置き換えることを目標にしていく。新たなスキルを教える時は、指導しやすい場面を設定し、意図的に指導していくことも必要になる。

コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)

学部 年 氏名 記入者 (記入日: H)

表現手段 表現内容		直接的な動き	クレーン	実物	カード					発声	発語 (単語・二語文以上)	指さし	書字	サイン・身振り	不適切な行動 (詳細は備考)	その他
					写真 (背景あり・なし)	絵 (カラー・白黒)	線画	ひらがな・カタカナ	漢字							
基 礎 的 な 内 容	要 求 (やって・ちょうだい)															
	要求内容: 物 (~が欲しいと表現する)															
	要求内容: 活動 (~をやりたいと表現する)															
	援 助 (教えて・助けて)															
	排泄の予告															
	体調不良 (痛い、疲れた、熱がある等)															
	拒 否 (嫌だ・やめて・いない等)															
	注意喚起 (呼びかけ・注目を促す)															
	質問への応答: 選択 (どっち・どれにする等)															
	情報の伝達 (終了報告)															
	質問への応答 (これは何・誰等)															
	自発的な発問															
	情報の伝達 (感情・現在・過去・未来)															
	あいさつ															

○: よく使う表現 △: たまに使う表現

※自発のコミュニケーションの出やすい
場面、内容、相手等

〈備 考〉

＜コミュニケーションのためのチェックリスト(凡例)＞

〔表現手段〕

直接的な動き	：物を見る，物に手を伸ばす，接近 等
クレーン	：人の手を持ち，やってほしいところに持っていく
実物	：実物を持ってくる
カード	：カード類を渡す，指さす
発声	：意図的に声を出して伝える（泣き声や奇声は不適切な行動）
発語	：単語，2語文以上（質問の意味が分からず出るエコラリア（オウム返し）や遅延性のエコラリアは言葉通りに取らずに意味の解釈に留意する。）
指さし	：ほしいもの，やりたいもの等を指さして伝える
書字	：文字を書いて伝える
サイン・身振り	：ジェスチャーやマカトンサイン，手話で伝える
不適切な行動	：自傷，他害，奇声等（※詳細は備考欄に記入）
その他	：AAC機器，文字表，指文字等

〔表現内容〕

要求（やって，ちょうだい）：やってほしい時や物がほしい時にどのように表現するか？
「両手を重ねて差し出す（身ぶり）」「大人の手をもっていく（クレーン）」「（そのもの）そばまで行って待つ（直接的な行動）」「『だっだ』等，はっきりした発音にはなっていないが，声を出して表現する（発声）」

要求内容（物）：ほしい物をどう伝えるか？
「ジュースが飲みたいときにジュースのペットボトルをもってくる（実物）」等

要求内容（活動）：やりたい活動があったときにその活動をどう表現するか？
「外に行きたいとき帽子を持つ（実物）」「ブランコの写真カードを手にとる（カード）」等

援助：わからないときに教えてほしい，できないときに手伝ってほしい等の表現
「活動を停止し教師を見る（直接的な動き）」「活動を停止し，奇声をあげる（不適切な行動）」等

排泄の予告：トイレに行きたいとき等にどう伝えるか？
「トイレのカードを渡す（カード）」「立ってうろうろする（不適切な行動）」等

体調不良：体の一部が痛い，疲れた，熱がある等の表現
「手を額に当てる（身ぶり）」「保健室の写真カードを示す（カード）」等

拒否：やりたくないとき，その場から離れたいとき等の表現
「物を片付ける，場所から逃げる（直接的な動き）」「机を軽く叩く（身振り）」
「パニック（不適切な行動）」等

注意喚起（呼びかけ，注目を促す）：教師の背中を叩く（直接的な動き）等

質問への応答（選択）：いくつかの選択肢からやりたいもの，行きたいところ等を選ぶ

質問への応答（何・誰・どこ・いつ・なぜ・どんな）：質問にどのように答えるか？

自発的な発問（何・誰・どこ・いつ・なぜ・どんな）：質問をどのようにするか？

情報の伝達（同意・終了報告・感情・やったことの報告・自分の予定を伝える等）

あいさつ（自発か？促されてか？）※備考欄に記入

※ 自発のコミュニケーションが出やすい 場面，内容，相手等

表現内容を広げたり，新しい表現手段を獲得させていくための指導場面設定の重要な情報になるので，できるだけ記入。

＜備考＞

不適切な行動についての詳細，使えるカードや伝えるサイン等が限定している場合の内容，あいさつは自分からできるか？等を記入。